

# 第 11 期 pES club step4 大会看護学生シナリオ

平成 24 年 6 月 24 日

東京北社会保険病院 4 階東病棟

岡田 恵梨

東京北社会保険病院 総合診療科

岡田 悟

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

あなたは、海老伝巢医科大学病院整形外科病棟の 2 年目看護師です。

芦塚内蔵さん（80 歳男性）は、日展（日本美術展覧会）で重役を担うほどの有名書道家です。病室は個室で、訪室の度に、「一作品作るのに紙を一反（100 枚）使うんだよ」と真剣な表情でノートに文字を書いて練習しています。芦塚さんは今回、左大腿骨顆上骨折のため観血的整復固定術を受け、今日が術後 5 日目です。左下肢免荷が必要な時期で、医師からは「骨と骨がずれるといけないので、骨がつくまで体重をかけないようにしてください」と説明を受けていました。芦塚さんは立ち上がり時にふらつきがあるため、トイレ移動の際には毎回ナースコールで知らせるように指導しています。しかしスタッフからの情報で、ナースコールがないのに車椅子の位置がずれているなど、何度か 1 人でトイレに行った形跡がありました。これでは、ベッドから車椅子、車椅子からトイレへの移動時に患側の免荷ができていない可能性があり、移動の観察と指導が必要だとカンファレンスで指摘されました。そこであなたは、トイレの誘導をしつつ移動を観察しようと、芦塚さんの病室を訪れました。

あなた「失礼します。芦塚さん、お食事前におトイレに行きましようか」

芦塚さん「（看護師の顔を見ずに）そうだね、1 人で行けますよ」

あなた「傷の痛みはいかがですか。まだ足をついたらいけませんし、お体を支えるお手伝いをしますね」

芦塚さん「いや、できるよ（移動している）」

あなた「足をついていらっしゃいますね」

芦塚さん「これくらいはいいだろう」

あなた「芦塚さん、まだついてはいけないんです。トイレではズボンの上げ下げもあって危ないですし、お体を支えますので一緒に中に入りますね」

芦塚さん「いいよ、1 人で。みんな、足ついちゃいけない、いけないって言うけど仕方無いんだよ。ちょっとくらいいいだろう」

芦塚さんは、連日の看護師の免荷の指導に苛立っています。どうやら、体重をかけてはいけない理由をあまり理解していない様子です。また、今年の日展が迫っており、1 人で作品に集中したい時期でもあるようです。そこであなたは、あらためて芦塚さんに免荷の指導を行うことにしました（10 分間）。